

2023年6月2日

国立大学法人山形大学
東北公益文科大学
酒田市
東日本電信電話株式会社

庄内地域における遠隔診療・地域コミュニティ形成に関する協定の締結について

国立大学法人山形大学(以下、山形大学)、学校法人東北公益文科大学(以下、公益文科大)、酒田市、東日本電信電話株式会社(以下、NTT 東日本)とは、庄内地域における遠隔診療と地域コミュニティ形成に関する実証実験について協定書を締結しました。

1. 目的

庄内地域において、過疎地域等における医師不足や住民の高齢化に対応するため、「遠隔診療」を普及させることとします。遠隔診療の器具を搭載した医療カーの活用によって、看護師が診療補助するなどの遠隔診療モデルについて実証実験を行い、さらに無線環境などにおける医療機器の通信品質や操作性等技術的な評価を実施します。

また、地域住民の交流を活性化させる地域コミュニティ形成のため、地域のコミュニティセンター(以下コミセン)へ高臨場での健康相談や高齢者の社会参加、学びの場の創出等の実現を目指します。その得られた結果をもとに、実装における課題を抽出することとします。

2. 背景と経緯等

コロナ禍において、介護施設や病院での感染クラスターの発生が大きな問題となっており、医師と利用者患者が直接対面する事なく、また遠方からでもすぐに診察できるリモート診察システムの導入が急務となっており、また、医療過疎地においては、リモート診察は住民の安心、安全な生活に不可欠です。

しかし、現在のリモート診察システムは、単にパソコンやタブレット、スマホなどで、医師と患者らが会話をするだけの機能しかなく、顔色など病状の診断に不可欠な情報や臨場感が不足しており、山形大学では、文部科学省 COI プロジェクトで、プロジェクト参画企業である NTT 東日本と共同で令和3年10月、酒田市の日本海総合病院、松山診療所と飛鳥診療所に本リモート診察システムを設置して運用を開始しました。

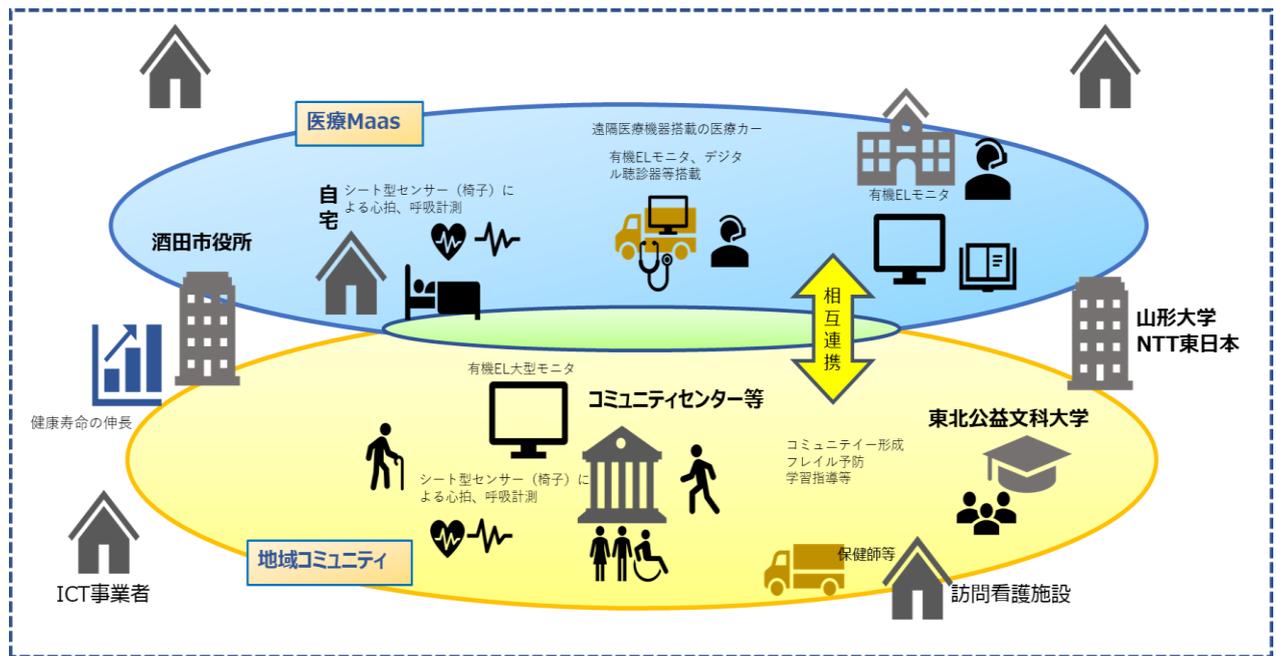
3. 具体的取り組み

本取り組みにおいては、山形大学及び医療機器販社などは、電子聴診器やエコーなどのセンサーをシステムに組み込み、より多機能な診察を可能にするとともに、多くのバイタル情報を医師に伝えることにより、リモート診察システムの診断精度を向上させます。システムの運用は、酒田市(日本海総合病院の協力)が実証に取り組む医療 Maas 事業との連携を検討していきます。

さらには、高齢者の見守りも兼ねてリモート健康相談等をコミセンでも行い、各種活動の際に、気軽に健康相談できるネットワーク環境を整え、また、高臨場大型モニターを設置してコミセン同士を繋ぐことによって多機能な「ハブ(HUB)コミセン」とし、公益文科大が中心となり、コミセン間での地域住民間での交流を活性化させます。

コミセンにおいては、こども教室を高齢者参加で行うことにより、子どもと高齢者間での交流を活性化させ、小中学生の居場所づくりや学習をサポートとともに、高齢者の社会参加を促します。

(概念図)



4. 締結日

2023年6月2日(金)